

長中だより



第7号（平成29年8月28日発行） 発行者 校長 小貫 崇明

【8月の生活目標】

- ・日常生活を振り返って自分を成長させよう。
- ・学校生活リズムの回復

〇奇跡のあじさいが結ぶ「絆」～熊本県宇土市を訪問～

8月3日～5日に、熊本復興支援「奇跡のあじさい」交流派遣団として、本校生徒会執行部6名とOBの高校生4名、そこに保護者3名、商工会関係者4名、引率教員2名の合計19名で、熊本県宇土市住吉中学校との交流や熊本地震で大きな被害を受けた地域の視察をしてまいりました。以下、その報告をします。

3日（木）の初日は、本校生徒会が昨年度「奇跡のあじさい」を送った住吉中学校を訪問し、しっかりと根付いたあじさいの苗を確認することができました。また、午後に訪れた宇土市仮設庁舎では、わざわざ宇土市の元松市長と歓談することができました。今回このようなあじさいの交流や市長との日程調整等に尽力いただいた高橋捷昭（かつあき）様には、住吉中でも市役所でも同席いただきました。



4日（金）は、一日住吉中の生徒会、及び住吉中学区の小学校児童会が参加するリーダー研修会に参加させていただき、子ども達の交流を深めました。午前中は、3艘のペーロン船に小中学生が分かれて乗りました。リーダーのかけ声に合わせて力強く漕がないとなかなか進みません。そんな中、一気に子ども達の心の距離は近づき、活動後の昼食時には笑顔で会話ができるようになりました。午後はそれぞれの生徒会から、学校の紹介と震災後の復興の状況や生徒会としての取組みについて発表しました。それぞれの感想発表では、住吉中学校生徒会役員の積極的な姿勢がすばらしく、長沼中生徒会執行部も大いに見習うところだったと思います。交流の記念にねぶたの絵柄のうちわを贈呈しました。



5日（土）の最終日には、午前中に熊本地震で大きな被害を受けた熊本城の現状を間近で見ることができました。崩れた石垣、足場が組まれ大修理が行われている天守閣などの建物は、20年という時間をかけて修復されていくとのことでした。また、午後には熊本地震の中でも大きな被害のあった益城町東無田地区を訪問し、震災後の復興に向けて頑張る地域の皆さんの取組みについて被災された方々から直接話を聞くことができました。まさに充実の3日間でした。長沼商工会様はじめ関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



○県大会・東北大会・全国大会～長中生、東へ北へ南へ～

7月22日、いわき市・平球場で中体連軟式野球県大会が行われ、長沼中野球部が県中地区代表として相馬市立向陽中学校と対戦しました。1点を先制しましたが終盤6回に同点にされ延長戦に突入し、9回に勝ち越され惜敗しました。15名という少人数の部員ながら県大会に進出してきた我が野球部だからこそその粘り強い戦いでした。新人戦からは部員が9名未滿となり、須賀川三中と連合チームを作ることになります。夏休み中は毎日三中から4名の野球部員が練習に参加しています。新人戦も頑張れ！（新人戦岩瀬支部大会は、9月27日～28日開催予定です。）



7月に行われた県大会で全国委標準記録を突破した100mの高久勇斗君、800mの阿部燎君は、8月8日～10日・青森市で行われた東北大会に出場し順調に決勝に進出、勇斗君は7位、燎君は6位とそれぞれ入賞を果たしました。そして、いよいよ決戦の地、熊本県での全日本中学校陸上競技選手権大会（8月19日～22日）に乗り込みました。大きな部分屋根が



ついた巨大なスタジアムはオリンピックレベルに見えるほど立派で、Jリーグの試合も行われている芝は、目にも鮮やかに手入れも行き届いた最高の舞台でした。その中で長沼中の2名は思い切り走りました。結果として予選通過はなりませんが、全国から集まった輝く星の1人として、それぞれにベストを尽くしました。

○特設合唱部、地区合唱祭で金賞～県大会へ～

8月23日（水）、矢吹町文化センターで開催された岩瀬支部小・中学校音楽祭第一部（合唱）に参加した長沼中学校特設合唱部は、少人数ながらも表情豊かな演奏を披露し、見事金賞を受賞し県大会への切符を獲得いたしました。顧問の関根先生はもちろん、ピアノ伴奏を努めていただいた鈴木由紀子先生、楽譜の譜めくりや練習のお手伝いをしてもらった卒業生の小林君など、多くの皆さんの協力のおかげで勝ち取った金賞です。おめでとうございます！



○P T A 奉仕作業～ご協力ありがとうございました～

8月26日（土）にP T A環境委員会主催の奉仕作業が行われ、たくさんの保護者の皆様にご協力をいただきました。夏休み中に部活動の保護者の皆様やJAの皆様にも草刈り等のお世話になっていましたが、大勢の皆様のご協力の下、短時間で敷地内がきれいになりました。朝早くから、本当にありがとうございました。

★大切にしたい言葉(7) 「お金は貯めてつかいなさい 心はつかって貯めなさい」

昔はお盆に親戚が集まると、盆小遣いをもらうことがありました。お小遣いをもらった私は「すぐに使わず貯金しておきなさい」と母親から諭されたものです。ところで、「人を思いやる心」とか「我慢する心」などは、とにかくたくさん経験させないと理解（体得）できないもので、家庭や学校はその様々な「よい心」や「心がけ」をたくさん貯める場でもあるということがいえるのではないのでしょうか。長沼中生には、たくさん「心の貯金」をしてほしいです。

私は、「お金も心もしっかり貯めたい」と思っているのですが・・・どちらも難しいですね。